

手をつなごう2007

平成19年 8月10日
岡山県立東備養護学校
支援部だよりNO. 12

2学期が始まりました



まだまだ暑く、夏のような日差しの中、2学期がスタートしました。今年例年に比べて「うわー真っ黒!」という子どもが少ないように思います。あまりに暑すぎて戸外での活動ができにくかったのでしょうか。始業式の次の日から運動会の練習が始まっていますが、体調に気を配り、暑さ対策も考えながら進めています。

さて、9月の支援部便りは夏休みの公開講座や巡回相談についてご報告します。

参加者延べ853名! 公開講座

本校の公開講座は地域の特別支援ネットワークと共催であるため、学校関係者だけでなく、様々な立場の方の参加があります。東備の地域で、いろいろな立場の者が一堂に会して特別支援に関する講演を聞く...これがとても意義のあることだと思ふのです。地域の「特別支援教育力」(?)向上のため、少しでもお役に立っていたら嬉しいです。4つの講座について、参加者アンケートの抜粋をそれぞれご紹介します。



参加者のアンケートより:講座1

中国学園大学教授 荻野竜也先生
「発達障害児への教育的支援と医療の連携」

幼稚園教諭

「注意するとき」「ほめるとき」と項目分けして教えてくださり、よく分かった。また、具体的な症状を知ること、時にはその子どもの側に立って考えることができた。子どもが生活しやすいよう、困難なことに付き合っていこうと思った。そして最後の「子どもを支える主役はあくまでも先生」...身の引き締まる思いで聞いた。また明日から新たな気持ちで子どもに向き合っていこうと思った。

保護者

保護者として障害をもつ者の困り感に支援主体をおいてくださったことに感謝する。支援の在り方に少しだけの思いやりをいただけたら、二次障害をクリアできたかもしれないと思うし、私自身も日々反省の繰り返しである。なるようにしかならないのかもしれないけれど、やっぱりあきらめてはいけない、障害をもって生きる者だって期待してあげたいと思うこの頃である。

中学校教諭

中学生を指導するためのヒントがたくさん得られた。わかりやすく説明されたので、症状としてでなくごく普通の現象として受け止めやすかったと思う。

特別支援学校教諭

最初の「共感よりも観察」「直感よりも理論」に打たれた。ついつい直感や経験に頼りがちな自分を反省した。最後の、「医療は道具、教師はプロとして接する中心人物」というのもしっかり心に留め、励んでいこうという気持ちになった。

保護者

大変充実した時間だった。障害児を支え育てていくうえで、最もそばで接していながら、わからないことばかりで不安な毎日だったが、先生のお話を聞き、大変参考になることばかりだった。家族向けの講演もあれば参加したいと思った。